

# 津波避難訓練実施の手引き

## 1 鹿児島市で起こった津波

### (1) 1779年：安永の大噴火

大噴火の後、1780、1781年に鹿児島湾内で海底噴火が起こり、津波被害が発生したとの記録が残っています。

### (2) 1914年：大正の大噴火

大噴火の約8時間後に鹿児島市街地でマグニチュード7.1の地震が発生し、その後に小規模な津波が発生しております。

※ 1792年：長崎県雲仙岳眉山の噴火後に山体崩壊が起こり、大量の土砂が海に流れ込み、津波が発生し、対岸の熊本県において被害が生じた記録が残っています。



◆ 鹿児島市では地震に伴う津波だけではなく、桜島の大噴火や海底噴火に伴う津波発生可能性があります。

## 2 注意！津波のこんなところ

津波の速さは  
ジェット機並み

津波の高さは想像以上

繰り返し津波は襲ってくる

引き潮がなくても  
津波は襲ってくる



◆お問合せ先◆ 鹿児島市危機管理課 TEL 099-216-1213

### 3 津波から命を守る対応チャート

#### こんなときには

強い地震（※1）  
や長時間の揺れを  
感じた。



津波警報が  
発表された。



海底噴火



津波注意報が  
発表された。



桜島の大噴火



避難する

避難に  
備える

#### まずこのような行動を

- ◆ 海岸にいる人は、直ちに海岸から離れ、素早く高台やビル等の安全な場所へ避難する。
- ◆ 沿岸部の住民は直ちに避難する。



- ◆ 海水浴や磯釣りはすぐに中止し、素早く陸上の安全な場所に避難する。
- ◆ 沿岸部の住民はいつでも避難できるように準備する。



#### その後は…

- ◆ 正しい情報をテレビやラジオなどで入手する。



- ◆ 津波は繰り返し襲来するので、警報・注意報が解除されるまでは絶対に海に近づかない。



※1 強い地震：震度4以上

震度4：ほとんどの人が揺れに気付く。吊り下げ式の電灯が大きく揺れる。座りの悪い置物が倒れる。

◆ 迅速な避難を！◆ 強い地震を感じたとき又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときや津波警報が発表されたときは、荷物をまとめたりせず、直ちに避難することを心がけましょう。

## 4 津波避難訓練の実施について

### (1) 津波避難訓練の必要性

津波から大切な命を守るには、住民自らの迅速な避難が人的被害を軽減するうえで最も有効な手段であり、安全に避難するためには、知識だけではなく実践的な訓練も重要です。

素早く安全に避難できるよう、自主防災組織を中心とした地域の津波避難訓練を実施しましょう。



### (2) 訓練実施の手順

#### 避難場所の選定（より高いところを）

- ① 高台（できるだけ高いところ）
  - ② 3階以上の鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート造の建物（24時間出入り可能な建物、できるだけ高い階へ）
  - ③ 5分くらいで避難できる場所
  - ④ 海に面した建物よりも、できるだけ海から離れた場所（海側から1列目よりも2列目）にある建物が良い。
  - ⑤ 津波が到達するまでに高台やビルにたどり着けない場合、緊急的な措置として、鉄道や道路等の高架部分、歩道橋等の利用を検討しましょう。
  - ⑥ 避難する時間に、余裕がある場合とない場合の避難場所を考えておきましょう。
- ※ 訓練を実施するときは、施設の管理者等に訓練の実施についてご理解いただき、訓練地として安全に活用できる場所であるか、十分に確認してください。

#### 避難経路の選定

- ① 山・がけ崩れ、建物の倒壊、落下物等の危険が少ないこと。
- ② 最短時間で避難先に到達できること。
- ③ 津波の進行方向と反対方向（津波に向かって行くような）の経路は設定しない。
- ④ 複数のルートを選択できること。（家屋の倒壊、火災の発生等に対応できるよう。）
- ⑤ 海岸、河川沿いの道路は、原則、避難経路としない。
- ⑥ 夜間の避難も想定して、夜間照明等の設置されている経路が望ましい。

#### 図上訓練

地域の地図を見ながら「避難に適切な経路」、「避難路の注意事項」、「安全な避難場所」などについて、みんなで意見を出し合い、避難訓練のシミュレーションを行いましょ。

#### 避難経路の検証（まち歩き）

「図上訓練」で話し合った避難経路や避難場所に危険な箇所（ガラス・看板の落下、崩れそうなブロック塀や土砂崩れの起きそうな崖等）がないか、実際に歩いて確認しましょう。



#### 避難訓練の実施・検証

訓練の際は、避難対策や避難に要した時間等が想定どおりか検証し、課題の抽出・整理・解決を図り、訓練の改善を行いましょ。